

令和5年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	泉南 市議会
報告者	議長 森 裕文 副議長 岡田 好子 事務局長 奥田 雅則
視察日時	令和5年7月6日(木) 9:45~11:15、13:30~14:30
視察先	茨城県守谷市、そなエリア東京
概要	<p>グリーンインフラ×スマートシティ自然共生型スマートシティモデル事業について、そなエリア東京</p> <p>○守谷市は、2017年にコンサルタント会社と守谷版グリーンインフラ（自然を地域の大切な資本ととらえ直し、自然の恵みを活用して社会の課題解決や豊かさ創造につなげる古くて新しい考え方）に関する官民包括連携協力協定を締結し、自治体スケールで戦略的に推進するため、守谷版グリーンインフラの核となる思想を行政計画・地域計画へ反映し、様々な施策を推進している。</p> <p>運営については、地元企業中心に構成される「もりやグリーンインフラ推進協議会」を設立し、官民連携コンソーシアムとして取り組まれている。</p> <p>施策内容として、ソフト系施策では、クラフトビールの製造・販売等を手掛けるとともに、ハード系施策として、グリーンインフラとしての空間整備や活用、さらには、スマートシティ関連施策として、自然共生型スマートシティモデル事業などの多種多様な事業に取り組み、グリーンインフラを棄損しないで、より一層活用しながら未来に繋ぐ仕掛けづくりを展開している。</p> <p>○そなエリア東京は、国営東京臨海広域防災公園内に防災体験学習施設として整備されている。平常時は、地震災害後の支援が少ない時間を生き抜くための知恵についてタブレット端末を使用して画面をタッチながら学ぶことができる。</p> <p>また、災害発生時には、災害対策活動に利用される基幹的広域防災拠点として国の緊急災害現地対策本部が設置されるオペレーションルームが開設され、国の拠点としての機能を併せ持つ施設となっている。</p>

グリーンインフラ×スマートシティ自然共生型スマートシティモデル事業について、そなエリア東京

○取手市のグリーンインフラに示される自然の機能を活用した資本整備や行政サービスの推進は、自然を保護・保全することではなく、機能の活用に焦点を当てているところに大きな特徴があり、人口減少時代である現代において、グリーンインフラの自然の機能を活用する考え方は大変有効であると感じた。今回、グリーンインフラ推進協議会の方から説明を受け、自然の多機能性を存分に発揮させるためには、自然活用に対する取組みをネットワーク化し、効果を生み出しながら、経済的な需給関係を構築して波及先を広げることが重要であり、そのためには、多様な主体による「協働・連携」が必要であると感じた。

所 見

海・山などの自然豊かな本市において、持続可能なまちづくりを推進していくために守谷市のグリーンインフラの活用への各種取組みは、大変参考になった。



○そなエリア東京では、「東京直下72hツアー」という体験学習ツアーに参加し、地震発生後の72時間を生き抜く知恵について学んだ。ツアーでは、被災地や避難場所の様子再現したジオラマの中を移動しながらARと連動した実物展示により疑似体験し、被災時の対応や留意点等について学習することができた。被災地の状況をリアルに体験し、今後発生すると言われている南海地震等への備えの大切さ再認識した。

